



KONICA MINOLTA

春の星座解説

S-104 (10 分 00 秒)

コニカミノルタプラネタリウム株式会社

春の星座案内

M F I

空いっぱい星が出そろった季節です。

厳しい冬の寒さのあとには、生命にあふれた春がやってきました。

休みなく繰り返されるこの季節の移り変わりと同じように、見上げる夜空には、冬の星座に変わって春の星座が姿を見せています。

M F O

本機付

星座絵

北斗七星

1

北東の空を見て下さい。
七つの明るい星が見えますね。
線で結びと、こんな形になりました。

明るくて大変目立つ星の並びですから、昔から世界各地で注目されてきました。

昔の中国では、水を汲むのに使う「ヒシヤク」の形に見たのです。

これを「北の空のヒシヤク」という意味で、「北斗七星」と呼んでいます。

星座絵
おおへま座

今、私たちが使っている星座の多くは、西洋のギリシヤ神話を元に作られたものです。
それ以外の「おおへま座」「北斗七星」の星々は、「おおへま座」という星座の尻尾の部分となります。

ポインター

ポ

北極星

星

春の大曲線1

春の大曲線2

ポ

アークツールス

星

うしかい座

星

おとめ座

ポ

スピカ

ポ

デネボラ

星

春の大三角

「北斗七星」を使った「北極星」の探し方 — みなさん、知っていますか？

「北斗七星」のマスの先に当たる二つの星を結んで、この方向にその長さの5倍のばすと、ポツンと光る明るい星が見つかります。

この星が「北極星」なのです。

今度は大熊の尻尾 — つまり「北斗七星」の柄の部分向南に向かったのばして行くと、明るい星が見つかります。この星からさらに南に、このカーブをのばして行くと、また明るい星が見つかりました。

「北斗七星」の柄から南に向かったのびるこの雄大なカーブを、「春の大曲線」とよんでいます。

「春の大曲線」の上にある二つの明るい星のうち、最初のこの星は「アークツールス」と言います。星座は「うしかい座」

「うしかい座」は、大熊を追う男の人の姿を表した星座です。

もう一つのこの星は、「おとめ座」の「スピカ」

星座絵では、乙女の持つ麦の穂の先に輝いています。

この「アークツールス」 — 「スピカ」 — それに、この星を結んでできる大きな三角形を「春の大三角」と呼びます。「春の大曲線」と共に春の夜空の目印です。

「春の大三角」を作るこの星は、「デネボラ」という名前がついています。

「デネボラ」とは「獅子の尾」の意味で、「しし座」の星なのです。

星

しし線

星

しし座

ポ

レグルス

「しし座」を見つけるには、獅子の頭に当たる星の並びを見つめます。

ちょうどクエッションマークの裏返しのような形ですね。これを獅子の頭として、「リネボラ」を尻尾の先とする。こんな姿が想像されました。

獅子の胸のところに輝くこの星は「レグルス」という名前です。太陽の通り道である「黄道」の間にある一等星として知られています。

太陽は8月の下旬にこの星のすぐ側に輝くこととなります。

ギリシャ神話によりますと、この獅子は、英雄「ヘルクレス」に退治されたネメアの谷の化け獅子とされています。

星

かに座

ポ

プセペ

(Oで囲む)

「しし座」の西隣には、「かに座」があります。暗い星ばかりで、カニの形を想像することは難しい星座です。

この星座を有名にしているのは、その甲の部分に「プセペ」と呼ばれる星の集団があることです。

肉眼では、ぼんやりとした光のシミのようですが、双眼鏡で見れば見事な星の集団であることがわかります。

このような星の集団を「散開星団」と呼んでいます。

M-C-1

なあ、春の星座 — 覚えましたか？

北斗七星

おおぐま座

北極星

北の空にある「北斗七星」

「北斗七星」は「おおぐま座」

「北斗七星」から「北極星」が見つかり――

アークツールス

うしかい座

「北斗七星」の柄をのばしたところ――この星が「アークツールス」

「アークツールス」は「うしかい座」

スピカ

おとめ座

さらにのばして――これが「スピカ」

「スピカ」は「おとめ座」の星。

春の大曲線1

春の大曲線2

しし線

しし座

このカーブが「春の大曲線」

クエッションマークの裏返し「しし座」のシンボル。

春の大三角

獅子の尻尾の星と「アークツールス」――「スピカ」とを結んで、「春の大三角」

かに座

獅子の西隣には「かに座」があります。

春の星座や星たちと一緒に見てきました。
暖かくなって星空の下で、夜を過ごしやすい季節になって
います。

今夜、もしも空がよく晴れていたなら、いま見てきた星座や
星を実際の空で探してみてください。